

第4章 プロジェクトの妥当性の検証

第4章 プロジェクトの妥当性の検証

4-1 プロジェクトの効果

4-1-1 直接効果

ア)本プロジェクトの活動を通じて医療機材が整備されることにより、対象施設における一次・二次医療サービスが回復または向上することが見込まれる。

レタバ地方病院においては、放射線撮影件数、手術数、歯科治療件数の増加といった診断・治療の基本的病院機能が向上し、二次医療施設としての機能が回復される。Dr. CN パトゥディ病院では、歯科治療件数、手術件数及び帝王切開術件数の増加が見込まれる。PHCの担い手として重要な役割を持つ保健センターとクリニックにおいては、機材の整備を通じて、診療の効果・効率のアップが図られ、住民の不満の1つである待ち時間の短縮等が可能となる。

イ)技術支援の実施により、コンピュータを用いて機材・消耗品・交換部品の更新計画を独自に作成することが可能となる。

ウ)新たに3クリニックが建設されることで、今までアクセスできなかった住民が利用可能となることから、対象地域全人口に占めるPHCへのアクセス可能人口が増加する。

エ)巡回診療車の更新と巡回ポイントシェルターの建設により、巡回活動数及び診療サービスの受益者数の増加が見込まれる。

4-1-2 間接効果

本プロジェクトが実施され、供与機材・車両が有効に活用される事により、グレーターザニーン地域の一次・二次医療サービスが全体的に向上し、各医療施設の基本的機能・レファラル体制が強化されることが期待される。

4-2 課題・提言

本プロジェクトの達成にかかわる外部要因リスクとしては、以下の2点が考えられる。

- 院内機材維持管理体制：各病院とも、調達及び在庫管理を行う部署があり、在庫管理台帳もあるが、維持管理に利用できる体制にない。しかし、2003年度よりの予算配分方法変更により、病院の維持管理はその病院で管理しなければならず、そのための体制整備が急務である。また、技術支援(ソフトコンポーネント機材維持管理指導)を行うにあたり、カウンターパートの確保、日本人技術指導員受入体制の整備等を含めた、院内体制の確立が必要である。
- 医療スタッフ数の維持：各医療施設とも、計画定員に対し7割程度が満たされているにすぎず、慢性的な人材不足の状態にある。現在のレベルの充足率が保持できない場合、プロジェクトの目的を達成するのは困難である。

最後に、本プロジェクト実施の前提条件として、「本プロジェクトに対する州厚生省の方針」を掲げる。基本設計調査の終盤に見られた要請内容変更のような大きな変更が今後も起こるようであれば、プロジェクトの実施そのものを揺るがしかねない。

4-3 プロジェクトの妥当性

以下の4点より、本プロジェクトを実施することは妥当であると判断される。

本プロジェクトの裨益対象が、貧困層（大部分が旧ホームランド住民）であること。

本プロジェクトの実施により、クリニックレベルでのPHC体制が改善され、住民のベーシック・ヒューマン・ニーズ向上に貢献できること。また、リンポポ州厚生省が最重要課題として掲げている「クリニックの整備」を支援するものであること。

計画機材は高度な診療機材を含まず、そのほとんどが更新であること、現在の人員体制を前提として機材計画を策定していることから、大幅な運営・維持管理予算の増加を伴わずして運営可能なこと。

グレーターザニーン地域が、本プロジェクトの目標達成の潜在能力を十分に持っていることと判断できること。

4-4 結論

これまで述べてきたように、本プロジェクトは多くの効果が期待され、また貧困層住民のベーシック・ヒューマン・ニーズ向上に寄与するものである。したがって、協力対象事業に対して日本の無償資金協力を実施する妥当性が確認される。さらに、本プロジェクトに対するリンポポ州厚生省の予算的な問題はないと考えられる。

ただし、本プロジェクトの目標を確実に達成するためには、「4-2 課題・提言」で述べた点の克服が不可欠である。

